介護実習の内容

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">各実習の目標および目的</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">実習Ⅰ－1
1年次
11月
10日間</td><td>目標</td><td>自分の立場を理解し社会性を身につけることができる。利用者や職員とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとることができる。施設の概要が理解できる。</td><td rowspan="6">多様な介護現場を体験し施設の概要を把握し記録する。利用者（家族）とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを実践し、再構成を記述し利用者理解を深める。基本的な生活支援技術の確認を行う。毎日実習目標を立て、実践した内容・評価・考察等を実習日誌に記録し、実習指導者に提出する。カンファレンスでは、実習段階ごとの目標について評価・考察し、自己を振り返り課題を明確にする。</td></tr>
<tr><td>目的</td><td>利用者や職員とかかわる中で実習生としての立場を自覚し、社会性を身につける。高齢者や障害児・者に対する介護の場を体験し、施設の特徴や介護職員の職務等の概要を学ぶ。利用者とかかわり、介護が必要な利用者の日常生活や生活環境を理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実習Ⅰ－2
1年次
2～3月
19日間</td><td>目標</td><td>様々な障害を持つ利用者とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとることができる。利用者理解を深め、接し方を学び自己洞察ができる。基本的な生活支援技術を実施することができる。</td></tr>
<tr><td>目的</td><td>利用者との人間的な触れ合いを通して社会的背景等の情報収集を行い、利用者理解を深める。福祉職としての受容的なかかわり方を学び、自己洞察の訓練を行う。基本的な生活支援技術を学ぶ。介護職としての倫理観を養う。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実習Ⅰ－3
2年次
7月
7日間</td><td>目標</td><td>利用者の障害や状況に応じた生活支援ができる。担当利用者の情報を収集し、生活上の問題となる状況に気づき、解釈・関連付け・統合化を行い、解決すべき課題を考えることができる。</td><td rowspan="2">担当利用者の情報収集・解釈・関連付け・統合化（アセスメント）を記録し、カンファレンスで統括するとともに発表する。毎日の日誌も実習指導者に提出する。</td></tr>
<tr><td>目的</td><td>生活場面における利用者の状態を観察し、解決すべき課題に気づき、利用者の心身の状況に応じた支援技術を学ぶ。様々な介護の場を体験し、居住・施設におけるリスクマネジメントを学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実習Ⅱ
2年次
8～9月
21日間</td><td>目標</td><td>担当利用者のアセスメントを実施し、全体像を把握して利用者が望む生活を考え、介護計画を実施・評価観察できる。居宅・施設におけるリスクマネジメントが理解できる。多職種の種類と役割を学び、必要性を理解する。</td><td rowspan="2">担当利用者のアセスメントから介護計画の立案、実施・評価・考察まで、一連の介護過程を実践・記録し、カンファレンスで統括するとともに発表する。毎日の日誌も実習指導者に提出する。</td></tr>
<tr><td>目的</td><td>利用者について、身体的心理的社会的側面から情報収集し、全体像を把握し解決すべき課題を考える。その課題の科学的根拠を明確にし、社会的背景を加味した利用者の心理を推察して、その理由と予測されることを考える。また、利用者の家族の望む生活を理解し介護目標を設定する。目標に沿ったかかわり方を含む具体的な介護の方法を考える。利用者の状況に応じた具体的な介護を実践し評価・考察する。介護に関連する、多職種の種類や職務を理解し連携の必要性を認識する。</td></tr>
</table>